

# ロタウイルスワクチン予防接種を受けるにあたっての説明

## ● ロタウイルス胃腸炎とワクチン

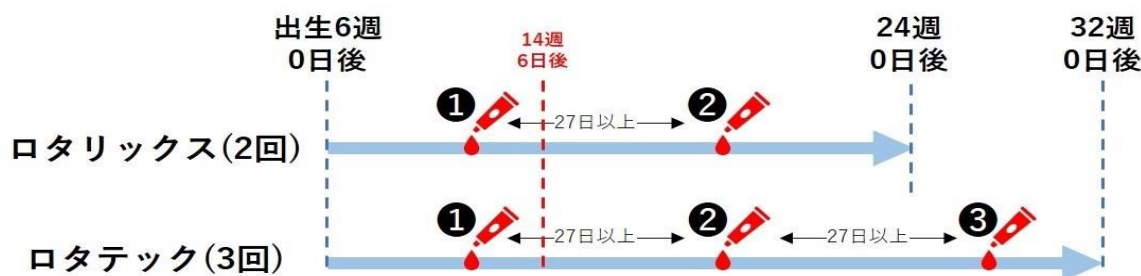
ロタウイルス胃腸炎は、感染力が非常に強く、激しい下痢や嘔吐を起こします。入院や、合併症を起こすこともあります。生後、すぐに感染する場合もあるので、ワクチンの接種は、早い時期に完了させます。ロタウイルスワクチンは2種類あり、どちらも飲むタイプの生ワクチンです。医療機関で相談し、どちらかのワクチンを選んでください。2種類とも、効果や安全性に差はありませんが、接種回数が異なります。特別な事情がない限り、途中で種類の変更はできませんので、最初に接種したワクチンを2回目以降も接種します。どちらのワクチンも、ロタウイルス胃腸炎の発症を7～8割減らし、入院するような重症化は、そのほとんどが予防できます。なお、ワクチンがうまく飲めなかったり、吐いたりしてしまった場合でも、わずかでも飲み込みが確認できていれば、ワクチンの効果に問題ありませんので、再接種する必要はありません。

## ● 接種時期：ロタリックス 出生6週0日後～出生24週0日後

ロタテック 出生6週0日後～出生32週0日後

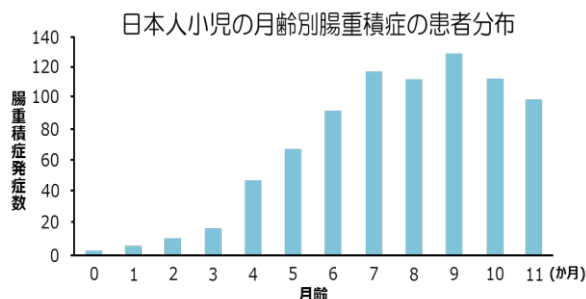
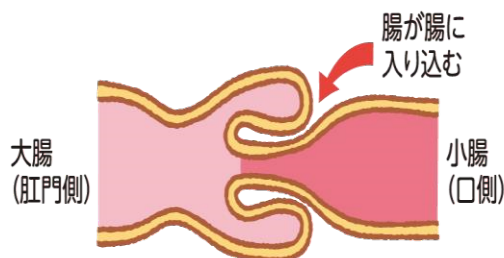
(標準的な初回接種は、どちらのワクチンも生後2か月から出生14週6日後まで)

## ● 接種スケジュール：ロタリックス 2回接種、ロタテック 3回接種



## ● 主な副反応

腸重積症とは、腸管に腸管が入り込み、腸が閉塞状態になることです(下図)。ワクチン接種後1週間程度、腸重積症の発症が、わずかですが上がる可能性が知られています。0歳児の場合、ロタウイルスワクチンを接種しなくても起こることがある病気なので、ワクチンを接種しなくても注意が必要です。もともと、3～4か月齢ぐらいから月齢が上がるにつれて多くなる病気(下のグラフ)ですので、早めにワクチンを接種完了しましょう。以下のような症状が現れた場合は、早く受診することが重要です。



腸重積症は、手術が必要になることもありますが、発症後、すぐに治療すれば、ほとんどの場合、手術をせずに治療できます。以下のような症状が見られた場合は、すみやかに医療機関を受診してください。

- 泣いたり不機嫌になったりを繰り返す
- 嘔吐を繰り返す
- ぐったりして顔色が悪くなる
- 血便がでる

他の医療機関を受診する場合は、必ずこのワクチンを接種したことを医師などに伝えてください。